

与那国町 (避難実施要領の概要)

避難誘導の方法（全般的方針）

- 県の避難の方針に基づき、町は、全住民及び滞在者等について、別に定める日時から避難を開始し、県等と調整し確保した民間の航空機をもって、**全住民が、概ね1日で、島外（九州）に避難**する。（避難に関する役場職員等の要員を除く。）
- 住民の負担を考慮し、移動時間が短い**航空機を可能な限り活用する方針**とする。
船舶は、航空機による避難が困難な**要配慮者及びその支援者**（家族含む）、**ペット同行避難者**などを想定する。
- この際、要配慮者等の避難を優先する。

島内の避難誘導の基本的な考え方（右図参照）

- 与那国島内を祖納集落、久部良集落及び比川集落に分け、**各集落からバスを活用して空港に避難**
- 空港から遠い、**比川集落、久部良集落及び祖納集落の順に避難**
空港へは、便ごとに比川集落、久部良集落及び祖納集落の組ごとに分けて、順に避難
- 住民は、**組単位で一時集合場所に集合後、県の確保した航空機のダイヤに間に合うように空港へ移動**
- 特別養護老人ホームの入所者などの要配慮者は、**一般の住民と同様、県の確保した民間の航空機による避難を基本**とするが、必要に応じ、関係機関と連携し、概ね1日で島外へ避難することを追求



地図出典：国土地理院

島外輸送計画

- 県等と調整し確保した航空機の運航ダイヤに基づき、**要員を除く全住民が、概ね1日で島外へ避難**
- 要員の避難は、関係機関と連携し、住民の避難を確認後実施

島内輸送計画

- 県が確保した航空機の運航ダイヤに合わせて、一時集合場所 → 空港へは町で確保したバスで輸送
※島内バス会社1社計4台（大型1台（53名席＋補助8席）、中型3台（39名席＋補助6席、28名席、27名席） 合計：161名
- 一時集合場所までの移動手段は、原則徒歩。町の認めた避難行動要支援者等で、車両で一時集合場所に移動する場合は、町の別途指定する駐車場に駐車。
- 空港周辺道路は、駐車車両や渋滞等による混乱防止や、避難動線の確保を目的に、交通規制を行う。

残留者の確認方法等

- 確認者：（主）組の代表、警察 （支援）役場職員、消防団等
- 派遣された職員等は、観光客等一時滞在者も、宿泊施設等の協力を得て、残留者の有無を確認する。
- 避難を完了した地区は、必要に応じ警察に要請し、警備を強化する。

避難要領の通知・伝達要領

- 防災行政無線、FAX、町HP、公式SNS、広報車、消防車、テレビ、ラジオ等あらゆる手段を活用し伝達する。
- 伝達系統は、防災計画に準じる。

避難者数は、下記の表のとおり。
組長 9 人が各組の避難誘導の主体となれば、住民の顔や性格等含め熟知しており有効であることから、避難の実施単位は「組」単位とする。また、避難先も理想的には組単位でまとめることが理想と考える。

- ・ 祖納集落
 - ▶ 東自治公民館 ①東一組、②東二組
 - ▶ 西自治公民館 ③西一組、④西二組、⑤西三組
 - ▶ 嶋仲自治公民館 ⑥西五組
- ・ 久部良集落 ▶ 久部良自治公民館 ⑦久北組、⑧久南組
- ・ 比川集落 ▶ 比川自治公民館 ⑨比川組

与那国町 地区ごとの人口分布、世帯数等（R5年4月時点 出典：町世帯数調査表）

地域等	世帯	人数	地区(公民館)	世帯	人数	避難単位 (組名)	避難単位 組別人口					一般とは別の ルートでの 避難を要する方 (ペット飼育者)	一時避難場所	一時避難 収容人数
								うち 要配慮者	うち 避難行動 要支援者	うち 行政の支援 が必要な方	うち 一般とは別の ルートでの 避難を要する方			
祖納集落	479	878	東自治公民館	181	346	東一組	234	79	39	3			構造改善センター	130
			西自治公民館	227	387	東二組	112	32	9	0			与那国中学校体育館	515
						西三組	99	47	21	2			保健センター	253
						西二組	122	62	24	2			西自治公民館	170
						西一組	166	57	18	3			複合型公共施設	391
			嶋仲自治公民館	71	145	西五組	145	47	12	0	1	与那国町活性化施設	381	
久部良集落	416	656	久部良自治公民館	416	656	久北組	223	63	32	2		久部良小学校体育館	565	
						久南組	433	66	23	2		久部良多目的集会施設	229	
比川集落	74	114	比川自治公民館	74	114	比 川	114	40	18	1		離島総合センター	397	
集落外	-	5	-	-	5	-	5	-	-	-	-		-	-
入域者	-	68	-	-	68	-	68	-	-	-	-		-	-
計	969	1,721	0	969	1,721	0	1,721	493	196	15	0	1	0	3,031

※特別養護老人ホームの定員30名及び職員数は含まない。

3 集落合計：1.648名

1 在宅の要配慮者の状況

種別		合計	(単位:人)					
			高齢者	要介護者	身体障害者	知的障害者	精神障害者	指定難病等患者
要配慮者		493	372	39	54	5	1	6
	うち避難行動要支援者	196	127	23	23	0	1	6
	うち行政の支援を要する者	15	5	7	3	0	0	0

2 在宅の避難実施単位別（組別）の状況

与那国町 地区ごとの人口分布、世帯数等(R5年4月時点 出典:町世帯数調査表)

地域等	世帯	人数	地区(公民館)	世帯	人数	避難単位 (組名)	避難単位 組別人口					一般とは別の ルートでの 避難を要する方 (ペット飼育者)	一時避難場所	一時避難 収容人数
								うち 要配慮者	うち 避難行動 要支援者	うち 行政の支援 が必要な方				
											うち 一般とは別の ルートでの 避難を要する方			
祖納集落	479	878	東自治公民館	181	346	東一組	234	79	39	3			構造改善センター	130
						東二組	112	32	9	0		与那国中学校体育館	515	
			西自治公民館	227	387	西三組	99	47	21	2		保健センター	253	
						西二組	122	62	24	2		西自治公民館	170	
						西一組	166	57	18	3		複合型公共施設	391	
			嶋仲自治公民館	71	145	西五組	145	47	12	0	1	与那国町活性化施設	381	
久部良集落	416	656	久部良自治公民館	416	656	久北組	223	63	32	2		久部良小学校体育館	565	
						久南組	433	66	23	2		久部良多目的集会施設	229	
比川集落	74	114	比川自治公民館	74	114	比 川	114	40	18	1		離島総合センター	397	
集落外	-	5	-	-	5	-	5	-	-	-	-		-	-
入域者	-	68	-	-	68	-	68	-	-	-	-		-	-
計	969	1,721	0	969	1,721	0	1,721	493	196	15	0	1	0	3,031

※特別養護老人ホームの定員30名及び職員数は含まない。

要配慮者：在宅の要配慮者の状況

3 在宅の要配慮者、避難行動要支援者の内訳

NO	地域単位 (例:避難単位) (例:公民館単位)	要配慮者				(左の内訳)			要介護者			身体障害者			知的障害者		
						高齢者	避難行動要支援者 (要件) 例)独居世帯、高齢者のみの世帯	左のうち 行政の支援が必要な方 (任意)									
			うち 避難行動 要支援者	左のうち 行政の支援 が必要な方 (任意)	左の純計 (重複のない 行政の支援 が必要な方 の人数)												
1	東一組	79	39	3	2	53	22	1	6	5		13	6	担送 1	2	1	
2	東二組	32	9	0	1	25	6		4	1		3	2				
3	西三組	47	21	2	3	35	14	1	3	3	1	9	4				
4	西二組	62	24	2	1	42	16	1	7	3	1	11	4		1		
5	西一組	57	18	2	2	46	11	全員 護送	6	4	担送 1	2	3	1			
6	西五組	47	12	1	1	38	7		2	1		5	2	担送	1		
7	久北組	63	32	2	2	50	23	1	4	2	1	2	1		1		
8	久南組	66	23	2	2	51	14		3	2	2	5	2		2		
9	比 川	40	18	1	1	32	14	1	4	2		3	1				
合計		493	196	15	15	372	127	5	39	23	7	54	23	3	5	0	0

NO	地域単位 (例:避難単位) (例:公民館単位)	要配慮者				精神障害者	避難行動要支援者 (要件) 精神障害者保健福祉手帳 1・2級所持者	左のうち 行政の支援 が必要な方 (任意)	指定難病等患者	避難行動要支援者 (要件) 全て該当	左のうち 行政の支援 が必要な方 (任意)	妊産婦	避難行動要支援者 (要件) 全て該当	左のうち 行政の支援 が必要な方 (任意)	在宅酸素	在宅外来人工透析 腹膜透析	在宅外来人工透析 血液透析	在宅人工呼吸器
			うち 避難行動 要支援者	左のうち 行政の支援 が必要な方 (任意)	左の純計 (重複のない 行政の支援 が必要な方 の人数)													
1	東一組	79	39	3	2	1	1		4	4		1	1					
2	東二組	32	9	0	1													
3	西三組	47	21	2	3											1		
4	西二組	62	24	2	1					0		1	1					
5	西一組	57	18	3	2				1	1		1	1					
6	西五組	47	12	0	1							2	2					
7	久北組	63	32	2	2							6	6					
8	久南組	66	23	2	2							5	5					
9	比 川	40	18	1	1				1	1								
合計		493	196	15	15	1	1	0	6	6	0	16	16	0	0	1	0	0

4 別ルートでの避難について

与那国町において一般の方とは別ルート(船舶)での避難を要する方についての検討状況

NO	避難単位 (組名)	行政の支援を要する方の カテゴリー(属性) ※複数選択可	一般の方とは別ルート(船舶)での避難を要する理由
1	月桃の里		航空機の短時間の避難を希望しているが、天候・航空機での避難に問題が発生した場合の代替えとして、船舶での避難を考慮しておくべきと思料(壱岐対馬フェリー、災害医療支援船等)
2	在宅要配慮者		同 上
3	西5組	ペット飼育者	ペット飼育者の要望として、航空機での避難でペットも一緒にできれば残りたい。船舶でペットの乗船が可能であれば船舶での移動を希望する。(ペット飼育者1名:犬2匹)

現状・論点

- ☞ 個別の状況に応じて、航空機又は船舶を選択し搬送（担送→延 3 便、護送・独歩→延 6 便）
- ☞ 具体的な要領等については、どのような方法が考えられるか。（必要に応じて搬送手段や搬送等の支援を要請）

事業種別等	施設名	定員 (人)	行政支援要否※ 1		搬送方法※ 2 R4.12時点			所管
			輸送手段	避難先	担送	護送	独歩	
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	月桃の里	30	○	○	3	2 4	3	県

※ 1 九州本土含む他の地域に関連施設等を有しないことから、搬送手段及び避難先の確保いづれにおいても行政の支援が必要であると一旦整理
 ※ 2 担送：介助者2名必要、護送：介助者 1 名必要、独歩：複数名に対して1名介助者必要、と定義

- 施設の職員：理事長以下 1 7 名（うち、看護師 1 名、介護士 7 名）
- 施設保有の福祉車両： 2 台 （乗車可能人員：車いす 2 台 + 3 人 （運転手除く））

【入所者の避難要領】

○ 担送 3 名を航空機 3 便、護送 2 4 名・独歩 3 名を航空機 6 便に付添の看護師・介護士及び職員を振り分け避難

【応援スタッフについて】

○ 月桃の里：看護師が 1 名の為、担送の付添いで 2 名の看護師の支援が必要、また介助の支援も 1 0 名程度必要
 ○ 在宅の要支援者：担送（3 名）の付添い看護師 3 名の支援が必要

島外輸送力の全体イメージ

訓練用

🚢 1日最大約240世帯480名の輸送力

- ▶ 福山海運「フェリーよなくに」が運航
- ▶ 石垣－与那国間を1日2便、所要約4時間
- ▶ 定員120名→臨時定員240名（条件付で車両積載スペースも搭乗可とし定員の大幅増）
- ※最大輸送力は今後の調整で増減する。

✈ 1日最大約880世帯1,727名の輸送力

- ▶ 平素は琉球エアコミューターが運航。定員50名。1日4便（与那国-石垣間1日3便、与那国-那覇間1日1便）
- ▶ 与那国空港で運航可能な最大機(B738)を1日11便（定員157名）運航し輸送力を最大化（ストレッチャー付6機）
- ▶ 与那国→福岡を所要時間約130分で運航

🚢 1日最大約370世帯740名の輸送力

- ▶ 吉岐・対馬フェリー（株）の「みかさ」が運航
- ▶ 石垣－与那国間を1日2便、所要約4時間
- ▶ 定員185名→臨時定員370名（条件付で車両積載スペース等も搭乗可とし定員の大幅増）
- ※最大輸送力は今後の調整で増減する。



最西端観光保有バス（計：161名）
大型バス1台（53席 補助席8席）
中型バス3台（39名席 補助席6席、28名席、27名席）

町保有バス（計：28名）
小型バス2台（13名乗り、15名乗り）

〈輸送力確保と避難誘導の方針〉

- ✍ 島外避難の主力は空路とし、海路は空路による避難が困難な方などのために補完的に活用。
- ✍ 船舶が着岸できない場合（目安の波高6m）は、空路のみの輸送となる。（別パターンで整理）

※本資料は、島外避難の検討等に係る意見交換時に案出した一例であり、特定の事態を想定したものではない。

島外輸送力の考え方

- ▶ 与那国空港で運用可能な**最大機(B738)**を**1日11便**（定員**157名6機**）確保
- ▶ **与那国空港→福岡空港（130分）**（福岡空港→那覇空港→与那国空港は180分）
- ▶ **給油は、那覇空港**で実施する前提

※157名は、ストレッチャー付

島外輸送力

1日あたりの最大輸送力

1,700名以上

平素の7倍以上の輸送力を確保



島内避難誘導の方針

- ☞ 一般の避難者は、航空機の出発時間に合わせて一時集合場所に集合し、バスで空港に向かう。
- ☞ 要配慮者は、必要に応じ関係機関への要請も考慮

※本資料は、島外避難の検討等に係る意見交換時に案出した一例であり、特定の事態を想定したものではない。

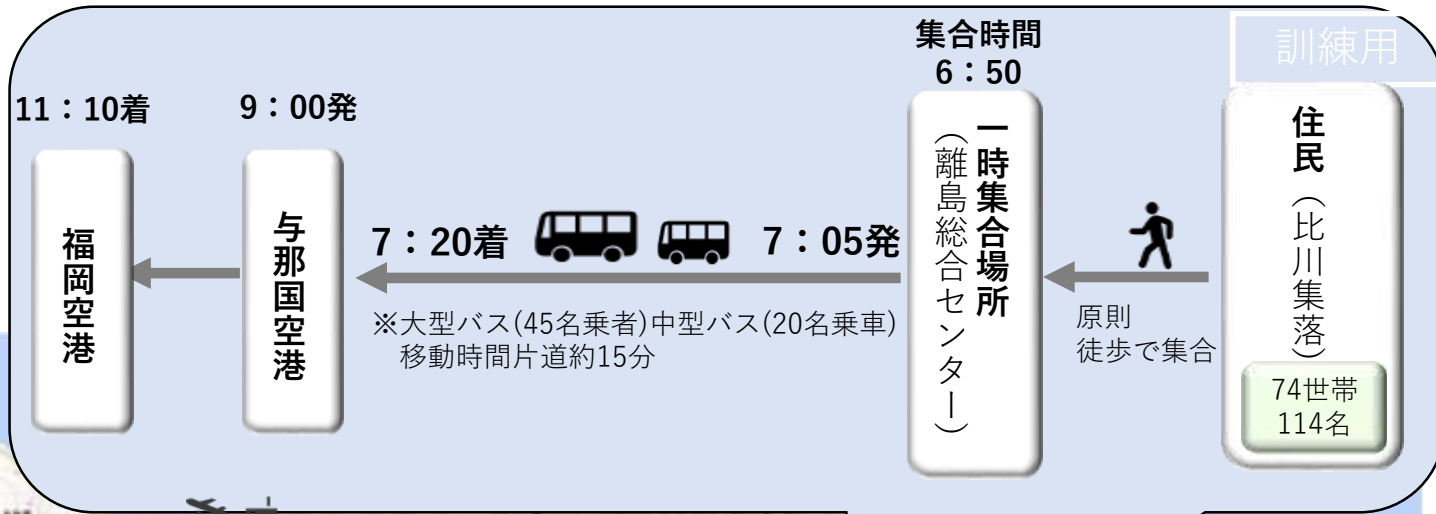
最西端観光保有バス（計：161名）
大型バス1台（53席 補助席8席）
中型バス3台（39名席 補助席6席、28名席、27名席）

町保有バス（計：28名）
小型バス2台（13名乗り、15名乗り）

島内輸送計画（比川集落）（案）

訓練用

06：50：一時集合場所の離島振興総合センターに原則徒歩で集合後
与那国空港へ右のとおりバスで移動
9：00出発の航空機で避難



※バスの配車時間等は現在調整中のため、今後変更となる可能性がある。

最西端観光保有バス（計：161名）
大型バス 1 台（53席 補助席 8 席）
中型バス 3 台（39名席 補助席 6 席、28名席、27名席）

町保有バス（計：28名）
小型バス 2 台（13名乗り、15名乗り）
※主に徒歩で集合できない方に対応

島内輸送計画（久部良集落）（案）

各組は、一時集合場所に下記の時間までに原則徒歩で集合後、空港へはバスで移動し避難

※中型バス(28名乗者)+中型バス(27名乗車)
移動時間片道約15分 ⇒ 最大55人移動

※大型バス(61名乗者)+中型バス(45名乗車)
移動時間片道約15分 ⇒ 最大106人移動

【久部良南】

集合時間	集合場所		与那国空港	福岡空港	便	
9:10	9:25発	⇒	9:40着 11:20発	13:30着	3	中型×2
10:20	10:35発	⇒	10:50着 12:30発	14:40着	4	大型+中型×3
11:30	11:45発	⇒	12:00着 13:40発	15:50着	5	大型+中型×3

【久部良北】

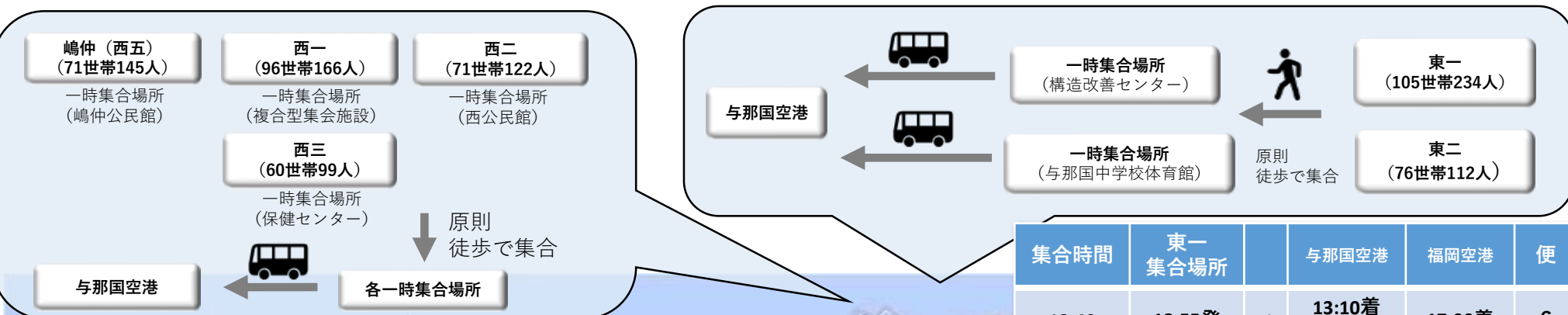
集合時間	集合場所		与那国空港	福岡空港	便	
8:00	8:15発	⇒	8:30着 10:10発	12:20着	2	大型+中型
9:10	9:25発	⇒	9:40着 11:20発	13:30着	3	大型+中型



島内輸送計画（祖納集落）（案）

訓練用

各組は、一時集合場所に下記の時間までに原則徒歩で集合後、空港へはバスで移動し避難



集合時間	西一 集合場所		与那国空港	福岡空港	便
16:10	16:25発	⇒	16:40着 18:40発	20:50着	9
18:20	18:35発	⇒	18:50着 19:50発	22:00着	10

集合時間	西二 集合場所		与那国空港	福岡空港	便
18:20	18:35発	⇒	18:50着 19:50発	22:00着	10
18:30	18:45発	⇒	19:00着 21:00発	23:10着	11

集合時間	西三 集合場所		与那国空港	福岡空港	便
18:30	18:45発	⇒	19:00着 21:00発	23:10着	11

最西端観光保有バス（計：161名）
大型バス 1 台（53席 補助席 8 席）
中型バス 3 台（39名席 補助席 6 席、28名席、27名席）



町保有バス（計：28名）
小型バス 2 台（13名乗り、15名乗り）
※主に徒歩で集合できない方に対応

集合時間	東一 集合場所		与那国空港	福岡空港	便
12:40	12:55発	⇒	13:10着 14:50発	17:00着	6
13:50	14:05発	⇒	14:20着 16:20発	18:30着	7

集合時間	東二 集合場所		与那国空港	福岡空港	便
13:50	14:05発	⇒	14:20着 16:20発	18:30着	7
15:00	15:15発	⇒	15:30着 17:30発	19:40着	8

集合時間	西五 集合場所		与那国空港	福岡空港	便
15:00	15:15発	⇒	15:30着 17:30発	19:40着	8
16:10	16:25発	⇒	16:40着 18:40発	20:50着	9

【バス運用例】

※大型バス + 中型バス × 3 : ⇒ 約161人乗車
※大型バス + 中型バス × 2 : ⇒ 約134人乗車
※大型バス + 中型バス × 1 : ⇒ 約106人乗車
※中型バス + 中型バス : ⇒ 約55人移動

【残留者を除いた場合】				島内輸送計画								島外輸送計画			
避難者の対象地域等				集合時間	集合 場所発	空港着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発	
※RAC DHC8-Q400CC機を活用し、避難のオペレーションに必要な要員や機材等を搬送														7:15	7:50
1	比川	101	入域者	45	6:50	7:05 ⇒	7:20	B738	①	146	157	11	93	8:20	9:00
2	久部良北	122	入域者	23	8:00	8:15 ⇒	8:30	B738	②	145	157	12	92.4	9:30	10:10
3	久部良北	99	久部良南	46	9:10	9:25 ⇒	9:40	B738	③	145	157	12	92.4	10:40	11:20
4	久部良南	145			10:20	10:35 ⇒	10:50	B738	④	145	157	12	92.4	11:50	12:30
5	久部良南	142	集落外	5	11:30	11:45 ⇒	12:00	B738	⑤	147	157	10	93.6	13:00	13:40
6	祖納東一	145			12:40	12:55 ⇒	13:10	B738	⑥	145	157	12	92.4	14:10	14:50
7	祖納東一	68	祖納東二	75	13:50	14:05 ⇒	14:20	B738	①	143	157	14	91.1	15:40	16:20
8	祖納東二	34	西五	110	15:00	15:15 ⇒	15:30	B738	②	144	157	13	91.7	16:50	17:30
9	西五	34	西一	105	16:10	16:25 ⇒	16:40	B738	③	139	157	18	88.5	18:00	18:40
10	西一	57	西二	85	18:20	18:35 ⇒	18:50	B738	④	142	157	15	90.4	19:10	19:50
11	西二	36	西三	94	18:30	18:45 ⇒	19:00	B738	⑤	130	157	27	82.8	20:20	21:00
最終	職員等				19:40	19:55 ⇒	20:10	DHC8		0	50	50	0	21:30	22:10
		983		588	1571			1,571 1,727			206				

検討条件

- ・与那国→福岡の所要時間は130分で仮定、・福岡→与那国は、160分を福岡→那覇→与那国に修正、180分に修正
- ・給油は、那覇空港で実施、・与那国空港到着時住民の降客なし
- ・最終3便は残席に余裕を持たせ、避難者の突発的な追加に対応可能な計画とする。
- ・与那国空港のエプロンは、B737-800は同時駐機不可
- ・B737-800を6機使用（JTAは同型機を14機保有、ストレッチャー付は12機）：搭乗者（最大157名）
- ・与那国空港の保安検査体制：現状1レーンで1時間あたり150人程度の保安検査体制で対応可能
増設レーンは、不測事態対応の為予備的手段として準備
- ・空港内及び空港までの与那国町の避難誘導の体制：職員等の配置で任務付与
- ・避難者の荷物の大きさ、持ち物等に関しての周知が必要（リュック1個・日用品）
- ・最終便のオペレーション（ドアクローズ等）：空港職員及び役場職員で対応
- ・門型金属探知機→1便目RAC便で輸送依頼
- ・空港運用時間08:00～19:30→07:00～22:30に延長可能

① 第1便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
1	比川	101	入域者	45	6:50	7:05	⇒	7:20	B738	①	146	157	11	93	8:20	9:00

○ 比川集落：101名、入域者：45名（※在宅要配慮者：護送1名（比川）家族1名を含む。）

※月桃の里入所者：担送1名、護送4名、職員等6名 合計：11名

② 第2便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
2	久部良北	122	入域者	23	8:00	8:15	⇒	8:30	B738	②	145	157	12	92.4	9:30	10:10

○ 久部良北：122名、入域者：23名（※在宅要配慮者：護送1名（久部良北）家族1名を含む。）

※月桃の里入所者：担送1名、護送4名、職員等6名 合計：11名

③ 第3便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
3	久部良北	99	久部良南	46	9:10	9:25	⇒	9:40	B738	③	145	157	12	92.4	10:40	11:20

○ 久部良北：99名、久部良南：46名（※在宅要配慮者：護送1名（久部良北）家族1名を含む。）

※月桃の里入所者：担送1名、護送4名、職員等6名 合計：11名

④ 第4便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発	空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
4	久部良南	145			10:20	10:35 ⇒	10:50	B738	④	145	157	12	92.4	11:50	12:30

○ 久部良南：145名（※在宅要配慮者：護送1名（久部良南）家族1名を含む。）

※月桃の里入所者：護送4名、独歩1名、職員等4名 合計：9名

⑤ 第5便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発	空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
5	久部良南	142	集落外	5	11:30	11:45 ⇒	12:00	B738	⑤	147	157	10	93.6	13:00	13:40

○ 久部良南：142名、集落外：5名（※在宅要配慮者：護送1名（久部良北）家族1名を含む。）

※月桃の里入所者：護送4名、独歩1名、職員等4名 合計：9名

⑥ 第6便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発	空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
6	祖納東一	145			12:40	12:55 ⇒	13:10	B738	⑥	145	157	12	92.4	14:10	14:50

○ 祖納東一：145名

※月桃の里入所者：護送4名 独歩：1名、職員等4名 合計：9名

⑦ 第7便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
7	祖納東一	68	祖納東二	75	13:50	14:05	⇒	14:20	B738	⑦	143	157	14	91.1	15:40	16:20

○ 祖納東一：68名、祖納東二

(※ 在宅要配慮者：担送1名(東一)、護送2名(東一)、家族5名を含む。)

※ 腹膜透析1名(西三) 家族1名 合計：2名

⑧ 第8便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
8	祖納東二	34	西五	110	15:00	15:15	⇒	15:30	B738	①	144	157	13	91.7	16:50	17:30

○ 祖納東二：34名、西五：110名

(※ 在宅要配慮者：担送1名(西五) 家族2名を含む。)

⑨ 第9便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
9	西五	34	西一	105	16:10	16:25	⇒	16:40	B738	②	139	157	18	88.5	18:00	18:40

○ 祖納西五：34名、祖納西一：105名

(※ 在宅要配慮者：担送1名(西一)、護送1名(西一) 家族3名を含む。)

⑩ 第10便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
10	西一	57	西二	85	18:20	18:35	⇒	18:50	B738	③	142	157	15	90.4	19:10	19:50

○ 祖納西一：57名、祖納西二：85名
 (※ 在宅要配慮者：護送2名(西二) 家族2名を含む。)

⑪ 第11便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
11	西二	36	西三	94	18:30	18:45	⇒	19:00	B738	④	130	157	27	82.8	20:20	21:00

○ 祖納西二：36名、祖納西三：94名

最終便搭乗者

	避難者の対象地域等				集合時間	集合場所 発		空港 着	機体名	機体 No.	搭乗 人員 (名)	搭乗 定員 (名)	残 席	搭 乗 率 (%)	与那国 空港 機材着	与那国 空港 発
最終	職員等				19:40	19:55	⇒	20:10	DHC8		0	50	50	0	21:30	22:10

○ ※ 役場職員等最終搭乗者：23名

～空港周辺道路の避難動線の確保～

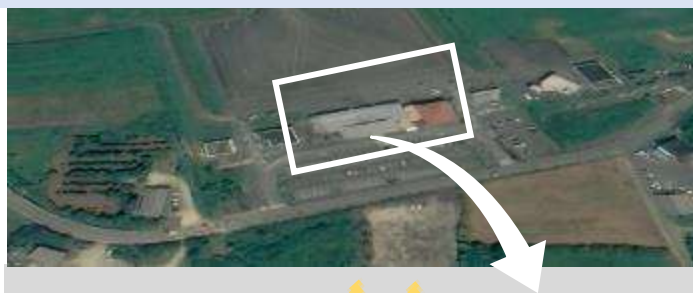
19

- ## 比川→空港ルート（さとや付近）

※各規制場所は、ロードコーン等を活用し原則役場職員等による1名体制
※許可を受けていない住民等が来た場合、各一時集合場所を案内
(一時集合場所で、町職員が要配慮者等に対して許可証を配布)

与那国空港の保安検査のイメージ（案）

訓練用



- ・与那国空港に離発着可能な最大席数のジェット機（B738：定員157席）を運用する場合、既存の保安検査体制で対応可能
（※一般的に1レーンで1時間に150人程度の検査が可能）
- ・増設レーンは、要配慮者等の時間確保及び不測事態対応で準備

【凡例】 赤矢印：レーン増設に伴う動線、青矢印：現状の動線

B737-800



写真：JTAホームページ

小型ジェット機
B738

スポット
①



搭乗待合室

既存レーン

増設レーン

通常動線の逆流

荷物受け取り

通常動線の逆流

レストラン旅果報（たびがふう）
【住民確認場所を想定】



貨物ターミナル

出発ロビー

到着ロビー

各一時集合場所からバスで空港へ

各一時集合場所へ

※本イメージは現在関係者等と検討中の内容であり、今後変更となる可能性がある。

ライフライン確保・維持の考え方

- 全住民の島外避難を目指すものの、住民が残っている状況では、ライフラインを維持する必要がある。
- 住民が残っていない状況でも、不法入国や巡回（空き巣対策）等のため一定の警察力は維持する必要、また誰がどこまで残るかを確認しておく必要がある。
- ライフラインの現況

種別	事業所	担当人数等	対応の概要
電気	沖縄電力与那国電業所	8名	○燃料570kLを貯蔵、夏場15kL/日消費、単純計算で燃料共有なしで30日程度は稼働可能。 ○避難指示が出た場合、避難の最終段階までは電力の供給を維持し、最後の避難住民と一緒に職員も避難するため、電気の供給は停止になる見込み。
ガス	J A 与那国支店	3名	○島内のガスは、プロパンで供給しており、交換作業を現地職員が実施使用状況を那覇でリモート監視。 ○避難指示が出た場合、住民の避難と同様に職員も避難することとなっており、ガスの供給は停止になる見込み。
水道	町役場	担当者数名	○給水量2,500m³/日、貯水量1,500トン、ただし、停電した場合、給水に支障をきたすため、12h～24h後には完全断水となる。 ○非常用発電機の燃料供給が出来れば、給水は継続できる見込み。
通信	NTT KDDI	無人	○通信設備は無人で維持されており、電気の供給が止まれば遮断される。 ○衛星電話、ドコモ回線のトランシーバーで対応 ○今後衛星インターネットの利用について検討

対応の方向性（案）

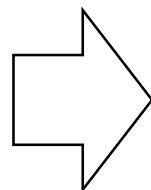
- 残留住民の有無に関わらず、警察力等の維持のため、必要最低限のライフラインの確保・維持は必要。
- 水道の供給には電気が必要。電気の供給のためには、燃料の供給が必要。
- 通信手段は移動基地局の応援や衛星の活用等、多重化方策を自然災害の事例等を参考に進める。
- ※ 上記事項を踏まえ、住民の避難の最終段階まではライフラインの維持に努める必要がある。

職員配置の方針

- ▶ 町国民保護計画の各班の役割に基づき、各所に職員を配置
- ▶ 消防団員や駐在員（警察官）は、島外からの応援が必要となるため、不足する人員を試算し、関係機関との調整が必要
- ▶ 避難の初期段階、最終段階に分け、配置数を試算

令和5年10月現在

与那国町職員数	
総務課	11
企画財政課	7
長寿福祉課	21
まちづくり課	8
産業振興課	6
空港課	3
出納室	2
議会事務局	1
教育委員会	14
合計	73



町国民保護対策本部	
対策本部長	町長
対策本部副本部長	副町長
総務対策班	21
福祉保健対策班	21
産業対策班	17
教育対策班	14

《その他関係者》

- ・消防団：18名（うち、16名役場職員）
- ・税関監視所：1名
- ・警察官：2名
- ・沖縄電力：8名
- ・農業協同組合：20名（うち、ガス係3名）

※ 会計年度職員・学校職員含まない。

【与那国町】住民避難に係る職員等配置（案） ～初期配置案～

訓練用

	場 所	役場職員	消防団	県警察	他機関	
役場対策本部	役場会議室	1 5			2	
東自治公民館（東一組）	構造改善センター	① 4 12:40～15:40	}			一時集合場所
〃（東二組）	与那国中学校体育館	② 4 13:50～16:50				一時集合場所
西自治公民館（西三組）	保健センター	③ 4 18:30～20:20				一時集合場所
〃（西二組）	西自治公民館	① 4 16:10～21:30				一時集合場所
〃（西一組）	複合型公共施設	③ 4 15:00～18:00				一時集合場所
嶋仲自治公民館（西五組）	与那国町活性化施設	② 4 17:20～19:10				一時集合場所
久部良自治公民館（北組）	久部良小学校体育館	② 4 08:00～10:40				一時集合場所
久部良自治公民館（南組）	久部良多目的集会施設	③ 4 09:10～11:50				一時集合場所
比川自治公民館	離島振興総合センター	① 4 06:50～08:20				一時集合場所
久部良港・祖納港		(2)		船舶使用の場合は、福祉要員を充てる		
与那国空港	空港課等：6 (3)	9		2		誘導員等：6
交通規制箇所		2	1			三箇所
高齢者福祉施設		1 3		要配慮者の避難に係わる調整・支援		
広報車		2				広報車による広報
合 計		5 3		2	2	
	役場職員	他機関	備考			
避難先役所	1 0		対策本部との連絡調整			
避難先空港	5		航空機への誘導等			
避難先港	3		市役所及び船舶への誘導等（石垣）			
避難施設	2		石垣市内待機場所（石垣）			
合 計	2 0					

※ 避難先役所及び避難先空港：避難開始前に配置を検討 ※（石垣）は、石垣経由で避難の場合

【与那国町】武力攻撃予測事態に係る島内残留可能性数（試算）～避難初期段階～ 訓練用

国民保護に係る試算（有事に係る島内残留可能性数）

R5年11月現在

	役場職員	消防団員	空港職員	駐在員	医療関係者	公民館関係者	水道管理	電力関係者	給油所関係者	航空・船舶関係者	運輸関係者	畜産関係者	J A関係者	合計
与那国町	5 3	11 (10)	6 (3)	2			(1)	8		4	4			7 5

※消防団員、水道管理（）は、役場職員を兼ねる。

※駐在員は、現員

※医療関係者は、医者及び看護師数

※公民館関係者は、公民館数

※電力関係者は、実員

※給油所関係者は、会社数

※航空・船舶関係者は、船会社数で試算

※運輸関係者は、会社数

※畜産関係者は、畜産農家数

※ J A関係者は、職員数

【与那国町】武力攻撃予測事態に係る島内残留可能性数（試算）～避難最終段階～

国民保護に係る試算（有事に係る島内残留可能性数）

R5年11月現在

	役場職員	消防団員	空港職員	駐在員	医療関係者	公民館関係者	水道管理	電力関係者	給油所関係者	航空・船舶関係者	運輸関係者	畜産関係者	J A関係者	合計
与那国町	1 5	(10)	6 (3)	2			(1)	8		4	4			3 6

※ 避難の最終段階における職員等の避難：3 6名（2 6名）

（）数字は、避難完了後も残留職員等が必要となった場合の最終段階の職員等の避難数。

【与那国町】武力攻撃予測事態に係る島内残留可能性数（試算）～避難完了後～

国民保護に係る試算（有事に係る島内残留可能性数）

R5年11月現在

	役場職員	消防団員	学校職員	駐在員	医療関係者	公民館関係者	水道管理	電力関係者	給油所関係者	航空・船舶関係者	運輸関係者	畜産関係者	J A関係者	合計
与那国町	8	(5)		2			(1)							1 0

※ 避難完了後とあるのは、残留住民が出た場合、最終的な確認等が必要になった場合等の対応の為、役場職員及び警察の1 0名の残留を見積もっている。

町内飼養状況（現在の畜産農家の聞き取り状況）

- ・畜産の農家数：38件
- ・総頭数：約600頭
- ・牧場併設の農家数：28件
- ・舎飼いの農家数：10件



現在の対応案

👉 避難時は牧場への放牧

【参考：住民及び関係者との意見交換におけるご意見】

（住民）

- ・家畜について、放牧してはどうか。→ 放牧等も含めて、町内の畜産部会等と意見交換を持っていきたい。

（関係機関）

- ・牛の出荷などは厳しいルールがあり、現実的に牛を島外に避難させるのは難しいと思う。島外のどこで育てるかなど課題は多い。
- ・農家の方々にはどう理解頂くかというのは検討が必要。

検討課題等

- ① 牧場での水飲み場の確保をどうするか。
- ② 避難を最優先しつつ、畜産農家への周知方法をどうするか。
 - ※テレビ、ラジオ、インターネット等により呼びかけるとともに、関係団体への通知、農家向けパンフレットの作成・配布する。
 - ※「残すこととなる家畜への給餌を検討すること」等について周知する。
- ③ 補償の有無及び内容の確認
 - ※国及び県の検討状況を注視し、引き続き関係者と調整を図る。

現状・課題

- 町では国民保護計画等にペットの避難についての記載はなし。
- 自然災害においては、環境省がガイドラインを出しており、同行避難を基本的な考え方としている。
- 他方、主な島外避難の手段である航空機では同行避難が不可（※最大運航することを目的にカーゴは使用しない）

現在の対応案

👉 ペット同行避難を希望する住民は船舶での避難

【参考：住民との意見交換におけるご意見】

- ・ ペットも家族の一員であるため、ペットの同行が出来なければ、残留するしかない。船舶でペットの避難も可能であれば船舶での避難を希望する。
- ・ ペットと同行避難できる避難先を確保してもらいたい。

検討課題等

- ① ペット同行避難の希望者がどのくらいの人数いるかを確認する。
※どこまでをペットとして同行避難を認めるのかは引き続き整理する。
※ヤギや馬もペットとして飼育している方の対応をどうするか。
※ケージを保有している場合は同行避難を認めるなどの基準を整理する。
- ② ペット同行避難を前提とした受入の準備について、避難先の自治体と調整が必要。
- ③ 防災における取組を参考に、備え（避難時の留意事項や持出品、備蓄等）について、周知啓発。（右図のような防災パンフレット等を参考にして国民保護版を作成し配布することも一案）。

ペットを飼っている皆さまへ

－災害時のペットとの同行避難について－

災害時、あなたとあなたの大事なペットを守るために、
いま、できることを考えましょう



飼い主がいま、やるべきことは？

- ワクチン接種や寄生虫の駆除など、健康面のチェックを
- 最低限のしつけや、ケージに慣らす訓練、マイクロチップなどによる所有明示を
- 住宅の災害対策や、フード、トイレシートなどのペットの避難セットの準備を
- ペットの受入れ対応を含め、事前に避難場所の確認を

もし被災してしまったら？



- 災害時にはペットを落ち着かせ、迷子にさせないように注意して、ペットとともに同行避難を

自治体の避難指示等には従う必要があります

ペットが理由で避難しないことは、自分の安全を脅かすことにつながりますので、ペットと一緒に同行避難をしましょう

メモ

同行避難とは、避難所までの避難行動（行為）のことをいいます
避難所で、ペットと人が同じスペースで過ごすことなどの（同伴避難）を指すものではありません



詳しくは、「災害、あなたとペットは大丈夫？」人とペットの災害対策ガイドライン＜一級創い主編＞をご覧ください。



令和2年8月作成